

平成25年度

# 狛江市一般会計予算に対する討論

## 財政再建に道筋。高橋市政に大いに期待

賛成 自由民主党明政クラブ 本橋文武

前市政16年間で硬直化した財政体質を立て直す。この視点から市政運営を始めたことは大いに評価できる。新たな基本計画、中期財政計画と財政規律ガイドライン、事実上無理であった第三中学校移転を撤回した公共施設整備計画、特別会計健全化指針など、空白の16年間でスピード感を持って埋めはじめた高橋市政に大いに期待をする。各施策では防犯カメラの設置、各放射線対策、認証保育所保育料補助の新設、道路維持費新設改良費の増額、全小学校にタブレット端末の導入、水道局用地、水道道路問題も着実に前進しており、多くの市民要望が実現できると確信する。また4月より中学校給食が突如中止せざるを得ない状況は、前市政の負の遺産として、原因の究明と2年半後の新給食センター開設までの代替案の検討を求め、編成替えを求める動議に反対し、原案に賛成する。

## 市民福祉の充実、新図書館建設への展望を

反対 日本共産党狛江市議員 西村あつ子

原案は矢野市政が進めてきた認可保育所の2園増設や防災センターや給食センターの整備など進める内容も含まれているが、新図書館建設の中止や市民参加と協働の後退、また、介護料の軽減制度や住宅リフォーム助成など切実な市民要望が盛り込まれないなど問題が多い。一方提案した予算編成替えを求める動議は、新図書館建設への基金積立や、参加と協働を市政の根幹に位置付ける検証委員会設置、介護料の軽減制度の創設、認証保育所保育料の軽減制度の拡充、住宅リフォーム助成制度の創設、高齢者の見守りと相談の拠点「シルバー交番」の設置、家具転倒防止器具の設置助成など、原案の問題点を正し、改善拡充するものである。また、市長の公約に真剣に向き合わない態度は不誠実で無責任である。よって原案に反対し予算の編成替えを求める動議に賛成する。

## 前市政では行えなかったことを実現する予算

賛成 狛江市議会公明党 亀井和美

ホームページの改修は早期に実施を。障がい者の外出支援のガソリン費助成額の拡充、これは前市政が減額にしたまま、今日まで置き去りにしてきたもの。福祉避難所のあり方については全庁あげての議論を要望。市民の命を守る地域防災計画の修正に全力を。避難所となる小・中学校の体育館の非構造部材の耐震調査は慎重に。災害時における相互応援に関する協定は、市民にとって大きな安心、高橋市政にかわったからこそ実現できたものと評価する。新小学校1年生のセカンドブックサービスの実施は大いに評価する。職員の意識において言われなくても自ら進んでやる、これこそが高橋市政における人材育成と市役所改革である。狛江市民の命と生活を守ることを最優先にした財政運営と行財政改革を望み、狛江市議会公明党は編成替えを求める動議に反対し、原案に賛成する。

## 魅力あるまちづくりが、着実に進められる

賛成 民主党狛江市議会 太田久美子

「行政改革」では、公立保育園2園を民営化し、小学校の給食調理を段階的に委託化に移行することで、人件費を抑制しスリムな組織として、さらなる改革が進められる。「財政改革」では、公債費の圧縮の必要性に迫られていることから、一定の抑制に努める方針である。「市民協働」では、「行財政改革推進プロジェクト」で、市民参加と協働の推進をまちづくりの基本として取り組み、市民活動支援センターの開設に向けての準備も示されたことから、市民自治のまちづくりが、より一層推進できることが期待できる。「食育」では、市民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができる計画や体制づくりが期待できる。「私たちがつくる水と緑のまち」が、着実に進められる予算であると考える。「一般会計予算の編成替えを求める動議」に反対し、「原案」に賛成する。

## 「集中と選択」を明確にした本予算を高評価

賛成 無会派 辻村ともこ

一般会計予算は257億2500万円対前年度比4・7%の増であり予算編成方針は、新政策・高橋市長の公約実現に向け6つの重点分野と5つの重点プロジェクトに絞られ、明朗快活目的、期限をはっきりさせた点が大変評価できる。身の丈にあった公共施設再編方針「三中移転中止」は住民目線で現実的な判断だ。(仮称)ニトリ狛江周辺の交通安全対策、岩戸・南部地域センター等施設改修工事期間の利用不能対策、いじめ防止条例制定、発達障害支援、ICT教育の充実を求める。子育てサイトは問題。見通しの甘い給食センター発注と同様の顛末にならないようアクセス数をしっかりと上げ、税金の無駄使いと言われぬようにすべきだ。平成25年度一般会計予算について、「集中と選択」を明確にした本予算に賛成し、予算編成替えを求める動議に対し反対する。

## 「入るを量りて出ざるを為す」予算へ

賛成 無会派 山田たくじ

将来世代にツケを残さないという、強い責任を感じる予算編成の第一歩という印象。財政の要諦(ようてい)は「入るを量(はか)りて出ざるを為す」という。現状、狛江市の市税は約113億円。それに對し、歳出規模は約257億円。今後ますます社会福祉費、インフラ補修費が増高する。あれもこれもというのは許されない。財政状況は好転したとは言えないのに、前市政が平成17年から3年行われた「行財政基盤確立のための緊急行動計画」をなぜ終わらせたのかいまだ理解に苦しむ。財政基盤確立のため、財政健全化条例を提案する必要があるのではないかと考えたが、今回行政が示した中期財政計画―財政規律ガイドラインが守られるか、行政改革の行方とともに監視して行く。原案には賛成する。

## 心機一転、市民と職員の間を生きる市政運営

賛成 無会派 吉野芳子

『ブレイクリーダーの意義を理解した』常設ブレイクパークの市民活動や学校では不十分な発達障害などの子供や若者や保護者の支援団体への予算は市民力を応援するもので高く評価する。今後の民間委託だが、質の高い信頼できる事業者の獲得には狛江市が高い理念を掲げた信頼に足る自治体であるべきだ。超少子高齢社会の図書館や児童館などはハコモノ重視ではなく、どんな機能が将来世代に歓迎されるのか先見性ある公共施設整備を求める。市食堂は市民力を生かす個性と魅力ある食育に資する食堂とせよ。子宮頸がんワクチンは多角的な検証と十分な議論が必要で、接種に関しリスクなどの情報提供は行政の責任と心得よ。中学校給食は給食の質と市民意見を重視し慎重に進めよ。新たな市民参加・協働、職員のやる気創出と専門性を高める人材育成に期待し賛成する。

## 基本計画改訂は市民統治に付する姿勢で

賛成 無会派 市原広子

市長予算は、昨年の予算修正時に我々が市政課題として指摘、現与党が公約に入れる約束をした「認証保育園保育料補助開始」「中学校給食センターの基本設計見直し」(給食方式の議員勉強会)がすべて入っている。長く指摘してきたあしき拡大主義の公共施設再編方針も昨年実現可能なものとして見直し、特に給食は食育方式に変える英断を下したことは評価と信頼に値する。しかし市長交代による基本計画の見直しに際しては市民参加手続きに不備があると危惧する。共産党市議員団の編成替え動議には市内事業者の仕事つくりとなる住宅改修補助などの市民生活要望が盛り込まれ、我々が実現の是非を指摘してきた40億の3中移転と滞在型新図書館建設構想の破棄に同調し、市民要望に即した新たな図書館の検討委員会設置など提案し評価しているので賛成。動議否決後は原案に賛成する。